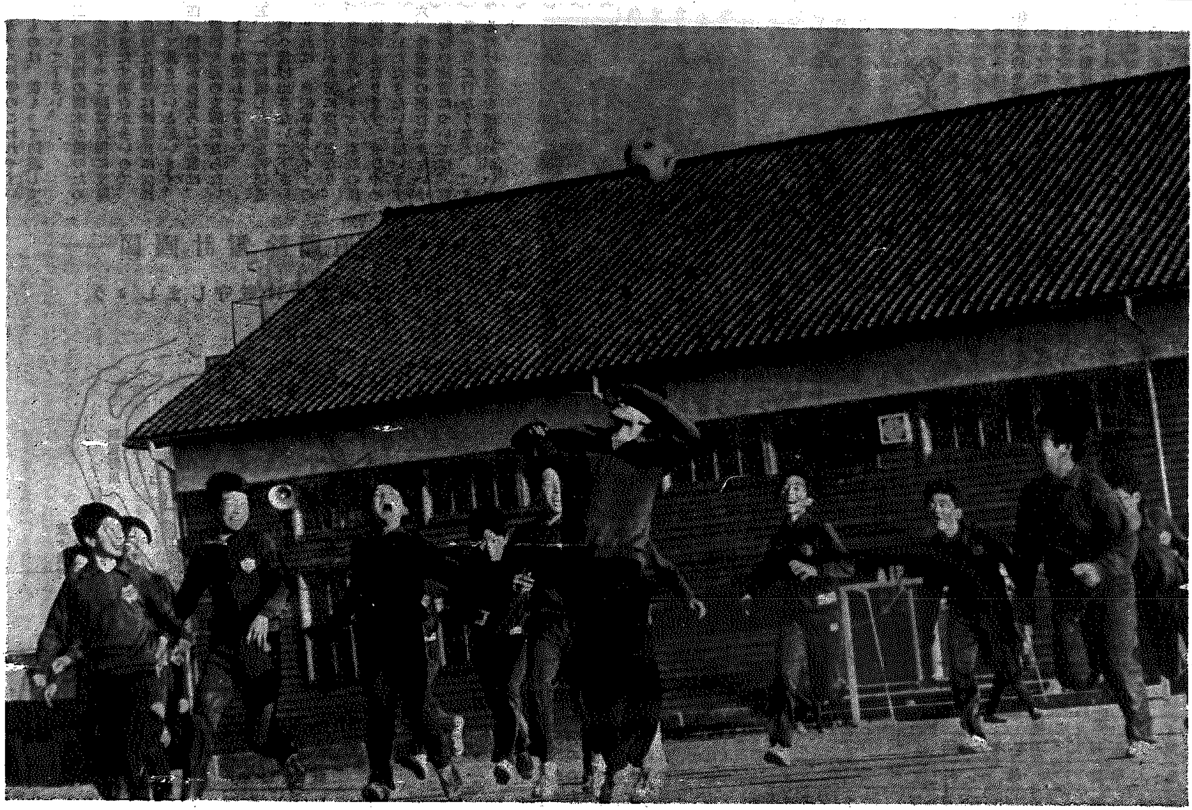
74 12
No. 31
昭和49年12月1日発行
発行 横越村役場

広報よこごし

～おもな内容～
1.飲酒運転追放100日運動（P 1）
2.除雪対策、消防対策も十分（P 2）
3.サラリーマンの奥さんも国民年金へ（P 3）
4.戸籍と蒸発（P 3）
5.姉妹村美浦村青年と交友をする（P 4）
6.多彩な文化祭行事（P 4）



飲酒運転追放 100日運動

実施期間　11月11日～2月18日迄

ただ今、県下一斉に「飲酒運転追放一〇〇日運動」が実施されています。

これまで、くり返しくり返し酒飲み運転の防止を呼びかけてきましたが、いぜんとして酒飲み運転があとを断たず毎日のように大きな事故の原因になっています。

これから忘年会や新年宴会などで、酒のつき合いが多くなる季節です。自分に限って事故はおこさない、という甘い考えがとり返しのつかない結果をまねき、生涯暗い人生をおくり家族を路頭に迷わすことになります。

運転する人はもちろん、まわりの人達も一緒になって、

「飲んだら乗るな、
　乗るなら飲むな」

を合言葉に、村民総ぐるみで飲酒運転の追放に協力し合いましょう。

具体的な方法として、次のことにご協力ください。

◇家庭において自動車に乗ってきた人には、酒は絶対にださない。

◇飲酒した場合は、自動車を運転させない。

◇酒の出る会合に行くときは自動車を運転させない。

飲酒運転者の氏名を公表

「飲酒運転追放一〇〇日運動」の実施中において検挙された〝飲酒運転違反者〟を公表することになりました。

これは、運動期間中に検挙された〝飲酒運転違反者〟には、厳重警告するとともに、その人の住所、氏名、年令、違反、事故年月日が所轄の警察署を通じて広報「よこごし」にも公表することになりますので、こうした公表をされないよう、お互に注意してください。

交通安全入選作文

みんなで守ろう交通規則（上）

中二　佐藤　真佐人

「あんな、水原でな、バイクに乗ってたのが、バスにぶつかって、即死してやそして目の玉が飛び出たんてや。」朝食の時、母が、ふとこんなことを言った。

「目が飛び出たって！ほんきかね。」

「おー。どんげにがっとにぶつかったんろかな。はんね、ばかみてらんな。」

こんなことがきっかけとなって、事故のことが、機関銃のように飛び出してきた。

「踏切事故てがんは、一番あわれらな。どんげながんでも、ぶつかった方が悪いんだし、汽車止めた分だけ、金払わんばねんが。それに、保険金らたって出ねんぞ。」

「へー。」

「今、だっちょもねでっけオートバイがあるねか。ナナハンてがん。あーゆうがんテ、ころんだたっても起きらんねんが。すっげ、重てんてんが。骨の一本や二本は、折れるてや。それに、あーゆうがんて、安定が、わーりんてんな。あんげがん乗らんたていいな。」

どの新聞を見ても、毎日のように、交通事故のことが、書かれている。その見出しの部分をいくつかひろってみた。

○酒酔いバイクで水田に転落。窒息して死ぬ。
○酒酔い運転で逮捕。
○自転車の小学生ダンプとぶっかり重傷。
○一時停止怠り衝突。歩行者とばっちり重傷。
○運転誤り海に転落。

事故、事故、事故って、なんで起きるんだろう。

この疑問は、ごく一般的初歩的かもしれない。それには、道路施設の不備が原因となっているのもあろうが、酒酔い、わきみ、追い越し、飛び出しなど、なにかと、本人の不注意から起こることが一番多いのではなかろうか。

（つづく）

横文抄

この秋は結婚式ブームで十月は三日おきくらいに公民館が利用されました。戦後ベビーブームの時代に生まれた人たちが成人されたことになるのでしょう。全国的にも結婚式が多く一日に三万組もあるという日があったそうです。

公民館の結婚式も利用される方が漸次多くなってありました。公民館結婚は昭和三十七年五月に旧公民館で第一回が挙行されたのですが、新しい公民館が設立されてから急激に増加して来、今年は年間二十数回を数え明春には百回目を迎えようとしています

公民館結婚は生活改善、明るい村づくりを目的として始められたものですが、この物価高の時勢に、実質的な生活をしようという村民各位の意向が高まったといえるでしょう。公営結婚の趣旨が村民の方々に理解されるようになったかと喜んでおります。

簡素で厳粛に、会費制で、参会者は平服で明るくなごやかに、物よりもお祝いする気持を大切に式をやろうということで行っています。村民の皆さんからこの趣旨を理解して頂いて、益々活用していただくようにお願いしたいと思っています。

明るい村づくりという趣旨から、結婚式の他にも新入会で病気見舞の返礼を廃止しようという運動がおこされ、各地域でその成果をあげようとしていますし、村内のある部落では葬儀用の用具一式を会費制で安くあがるようにしようという動きが高まって、実施の段階に来ているということです。

このような時勢の中ではいろいろな面で生活のちえを働らかせる必要があるでしょうし、特に冠婚葬祭については物よりも気持を大切にして行事を行っていくことが大事なのでしょう。

◎酒！ その一杯が命とる　◎運転に酒は飲むまい飲ませまい